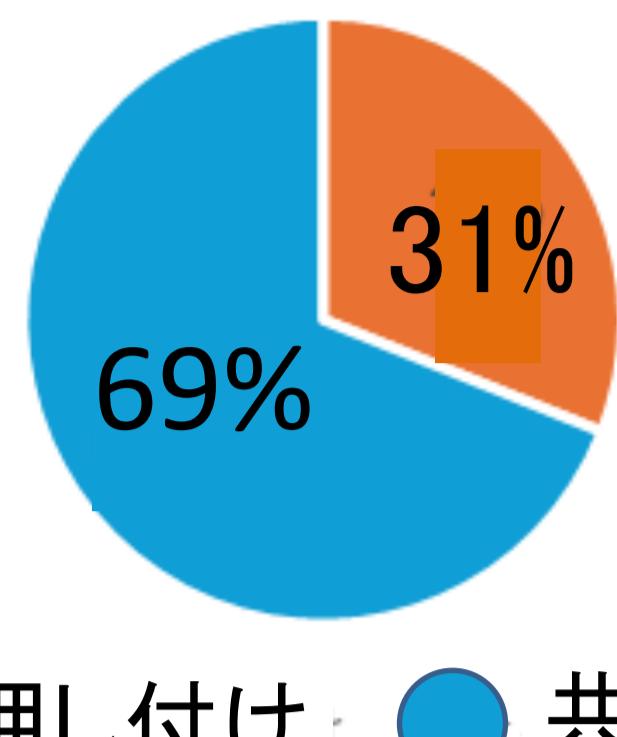


援助は共生？それ、洗脳だから！！

ほっかいどうはでっかいどう/嶋田晴行ゼミ

途上国への援助は共生？押しつけ？



● 押し付け ● 共生

定義

- ・**援助**: 社会的、経済的、人道的な目的で行われる支援全般
- ・**共生**: 双方の主体的な意思決定によって互いのニーズを満たし、その関係が持続可能であること
- ・**押し付け**: 主体性に欠け、一方的に価値観や都合を適応すること

個人による援助

共生

- ・ 寄付先の透明性や活動内容を確認
- ・ 金銭的な寄付
- ・ フェアトレード製品の購入

押し付け

- ・ 寄付先を確認していない
- ・ 短絡的なSNS投稿
- ・ 低品質な「モノ」の寄付

企業による援助

共生

事例: ユニクロの服寄付

- ・ 現地ニーズに合わせて服を厳しく選別
- ・ 現地の文化や宗教的制約の理解、対応
- ・ 自立のための職業訓練活動
- ・ 難民への雇用促進

押し付け

事例: ネピア「千のトイレプロジェクト」

- ・ 多くのトイレが壊れたまま放置
- ・ 衛生知識不足でトイレが十分に活用されず
- ・ 現地ではトイレより給水施設を求めていた

政府による援助

共生

事例: 日本からインドネシアへのODA

- ・ 灌溉施設の整備援助で生活水準向上
- ・ 技術・知識の移転
- ・ 双方向的利益
- ・ 地域開発

押し付け

事例: 中国のタイド援助

- ・ 政治利用、経済依存
- ・ ドナー国の利益追求で現地の意思が反映されにくい

共通する問題点

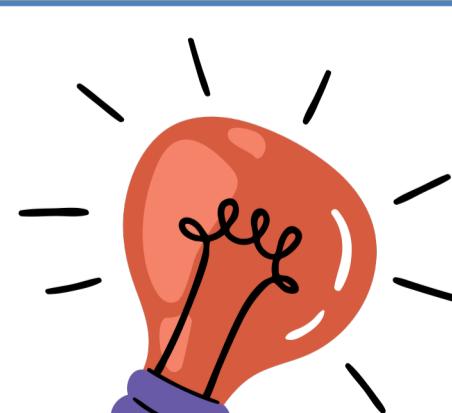
問題の原因

- ・ 現地への無理解と解像度の低さ
- ・ 与える側中心の一方的な関係
- ・ 短期的な援助と長期的責任の欠如
- ・ 援助による依存関係の固定化、助長

- ・ 現地のニーズより援助側の都合を優先
- ・ 無意識的な上下関係
- ・ 短期的な成果の優先

結論

援助は「関係を紡ぐための行為」
援助主体を多元化し、対等で持続可能な関係を築く



参考文献

